



桐生市小学校理科学習発表会 6年生3名が研究発表

18日(木)に桐生市市民文化会館の会議室で、桐生市小学校理科学習発表会がおこなわれました。桐生市内15小学校から34名の5・6年生が参加し、夏休みの自由研究などで取り組んだ様々な研究を模造紙やプレゼンテーションソフトにまとめ、発表しました。

相生小学校からは、H・Mさん、N・Yくん、O・Rさんが参加しました。3名の6年生は、たくさんの参観者の前で、わかりやすく丁寧に発表することができました。

『身近なものヨウ素液』 6年3組 H・M

ヨウ素液を使ったでんぷんの有無を調べる実験に興味をもったH・Mさんは、理科の授業の発展として、日常生活の中の身近な食品や物品について、でんぷん反応を検証しました。ラムネの反応が強くてたくさんのでんぷんが含まれていることがわかった実験結果となりました。

30種類もの検体を使って調べた地道な研究が、指導助言者から評価されました。



『光の研究』 6年2組 N・Y

5年生の時に「赤外線」について研究したN・Yくんは、その追加研究として「光の研究」を取り上げ、光の通過と反射の実験をおこないました。また、布はなぜ光を通すのかといった疑問を追究するために、顕微鏡を用いた布の観察も実施し、さらに研究を深めていました。

指導助言者からは、実験結果を通して新たな疑問をもち、研究を発展させている探究心が素晴らしいと評価されました。



『かいこの研究』 6年2組 O・R

かいこの研究を続けているO・Rさんは、新聞記事で天皇陛下、皇后陛下が「天蚕」を育てていることを知り、「家蚕」との比較や、天蚕の繭からとれる糸の特徴を調べる研究をおこないました。川内町にある千美工房での体験学習や天蚕の飼育を通して、天蚕の生態を知り、黄緑色で丈夫な天蚕糸の特徴を学ぶことができました。

指導助言者からは、専門家の指導を生かした研究と、桐生の伝統工業と結びつく学びの良さについて評価してもらいました。

